

情勢報告（令和7年1月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

令和6年産「土佐天空の郷」の振り返り



総会の様子

令和6年12月16日、本山町特産品ブランド化推進協議会は総会を開催し、生産者25名、本山町農業公社4名、普及所2名が参加しました。

6年度は斑点米カメムシ類や高温障害による不稔及び白未熟粒の発生が多かったため、普及所は、高温対策として適正な肥培管理や、根腐れ・根傷み防止対策として適正な水管理などの栽培管理技術を説明しました。また、6年度に実施した直播の試験や銅剤を活用した稲こうじ病の試験結果を共有しました

生産者からは、試験内容について活発に質問が挙がりました。

普及所は、今後も関係機関等と連携し、「土佐天空の郷」の高品質生産に向けて支援していきます。

ユズの有機栽培化に向けて現地調査を行っています！



調査を行う普及指導員

嶺北農業改良普及所では、JA高知県れいほく無農薬柚子部会を対象に搾汁用ユズの有機栽培化を目指しています。

この取組の一環として、生産者の心理的負担を少しでも解消し有機栽培への移行を円滑にしていくことを目的に、有機肥料施用の実証試験を本年10月より実施しています。今後は、生育・土壌・収量の変化や経済性について化成肥料施用栽培や無肥料栽培との比較で調査していく予定です。

普及所は、引き続き、生産者や関係機関と協力してユズの有機栽培化に向けた取組を推進していきます。

担い手・新規就農者確保に向けた先進地調査



黒潮町役場、黒潮町農業公社との意見交換会の様子

1月8日、嶺北管内の町村・JA等で構成される嶺北地域農林業振興連絡協議会は、担い手確保の優良事例を学ぶことを目的に、黒潮町農業公社への視察研修を実施し、10名が参加しました。普及所は視察先との事前の調整や当日の進行を行いました。

キュウリを中心に研修ハウス3棟(各15a)、サポートハウス2棟(各10a)で運営されており、研修生は1年目から独りで栽培管理ができるように、実践的な研修が行われてました。「一人前になるには、10aで所得400万円を目標に技術を磨いていく必要がある」との言葉が印象的でした。

普及所では、この研修を参考に関係機関と連携して担い手確保に向けた取組を支援します。

嶺北地区農村女性リーダー協議会が視察研修を実施しました



まちだ農園の視察の様子

1月14日、嶺北地区農村女性リーダー協議会は活動のステップアップに役立てるため、みどり市とまちだ農園の視察研修を行いました。普及所はJA及び須崎農業振興センターと連携しながら研修内容の検討や事前準備、当日の運営を支援しました。

参加者は、みどり市では農産物の価格や品質、品揃え等を注視しながら見学しました。まちだ農園では、ほ場の見学と新規就農から経営安定までの経緯やフルーツミニトマトの栽培・販売等についての説明の後、参加者から様々な質問や意見が出され充実した内容の研修になりました。

普及所は、今後も農村女性リーダー協議会の活動を支援していきます。